

コミュニティ・子育て拠点整備基本計画

～旧朝陽第二小学校跡地の活用～

<概要版>

令和8年3月

鶴岡市

施設の整備方針

目的	「こども・若者の地域への愛着を醸成し、地域で活躍したいと思うこども・若者を増やす」 「まちづくりの土台となる地域コミュニティを強化し、若者・子育て世代に選ばれ、高齢者も安心して暮らせるまちを実現する」
目標	「多様な世代の交流や活動を通じて地域とのつながりを深め、地域に愛着を感じる人を増やす」

〈基本理念〉 集う 育む 支え合う みんながつながる交流拠点

〈整備方針〉

- 1 第二学区コミュニティセンターの移転改築
 - ・誰もが集まりやすい地域コミュニティの拠点とする。
 - ・中央児童館との交流・連携を図る。
- 2 多目的軽スポーツホールの整備
 - ・多世代の交流が生まれ、地域コミュニティの活性化に繋がるよう軽スポーツだけでなく、幅広い用途で利用できるホールを整備する。
- 3 中央児童館の屋内屋外が一体となったプレーパーク整備
 - ・こどもの自由な発想で遊びができる屋内・屋外の遊び場を整備する。
- 4 交流と連携を生み出す敷地全体の活用
 - ・多世代の交流、施設間の連携が生まれる空間を整備する。

〈拠点のコンセプト〉

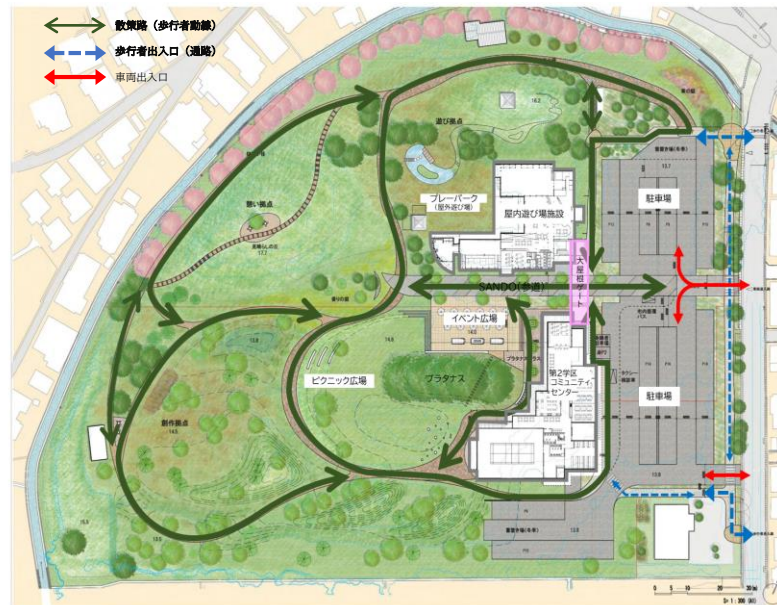
「人と人、人と地域がつながる拠点」

- 1 多様な世代の人が集まる拠点
 - ・こども・若者、大人など多様な人が集まることができる拠点とします。
- 2 利用者の心理的な安心感がある居場所
 - ・気軽に、ゆっくりと、落ち着いて過ごせる場所とします。
- 3 様々な利用ができる場所
 - ・遊び、運動、集会、芸術、学習、料理など様々な活動ができ、利用者が自由に過ごせる場所とします。
- 4 多様な世代が参加できる活動の創出
 - ・世代に関係なく共通の目的を持って参加でき、知識や技術を教え合える活動の創出を図ります。
- 5 信頼する人、共感する人、支え合う人とのつながりの創出
 - ・同世代だけでなく、多様な世代と活動や相談を通じて、信頼や共感、支え合う関係性の創出を図ります。

〈拠点設備の留意点〉

- 一体的な空間づくりを行います。
- 緑豊かで広大な敷地である整備予定地が持つ魅力を最大限に引き出します。
- 散策路や様々な活動・イベント開催を可能にする広場、屋内外が一体的に利用できる施設計画とします。
- コミュニティセンターとこどもの遊び場が相互の機能連携と相乗効果を図り、こどもから若者、高齢者までが楽しめる多世代交流の場とします。
- コミュニティセンターは、これまで特定の世代や利用目的での利用が多かったことから、用事がなくても誰もが立ち寄れる場所とします。
- こどもの遊び場は、こどもが主体となって遊ぶことができるプレーパークとして整備し、既存施設である中央児童館を改修し、屋内外を一体的に利用できる遊び場とします。
- こどもが利用するエリアの再配置を行い、保護者や大人も心地良いと思える屋内外の居場所づくりを行います。
- 年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もが共に過ごせる環境を整えます。

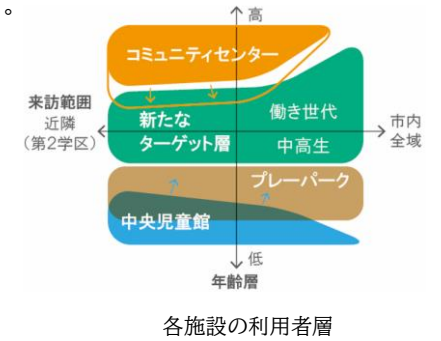
〈拠点イメージ図〉



管理運営計画

当拠点の管理運営については、基本理念である「集う 育む 支え合う みんながつながる交流拠点」を具現化するため、当拠点の様々な施設・機能が相乗効果を発揮できるような管理・運営体制の構築が重要となります。

同じ敷地に主に学区住民を対象としたコミュニティセンターと主に全市民を対象とした屋内遊び場・プレーパークを整備することにより、施設利用対象者の幅が広がり、今までになかった利用や運用への対応が必要となります。



当拠点の特性を最大限発揮できるように、以下の方針で、各施設管理者が連携して、エリア全体を管理運営していく体制構築を図ります。

<管理運営の方針>

- コミュニティセンターは指定管理者制度による管理運営を行います。
- 屋内遊び場・プレーパークは指定管理者制度または委託事業による管理運営を検討します。
- 敷地全体を各施設管理者が共同して管理運営していく方法、体制を検討します。
- 利用者が「使いながら整備する」「使いながら維持管理する」といった市民とともに育てる施設となるような管理運営体制を検討します。
- プレーパークを含む野外における遊びについては、供用開始後もこどもの意見を聴きながら、こどもを中心にプレーリーダーや地域の方々と共に作り続ける遊び場を目指します。
- 多様な人や団体等が、運営をサポートする立場として関われる仕組みづくりを検討します。
- 上記の方針に基づき管理運営方法を検討するため、各施設の想定される管理運営者と市関係部署が定例会議を開催し、引き続き検討していきます。

概算事業費

内容	概算事業費
コミュニティセンター建設工事、児童館改修工事などの拠点整備に関する全ての工事	約15億円（税込）

- ※ 事業費には、電気設備工事費、機械設備工事費、外構工事費を含みます。
- ※ 工事監理費、備品購入費、現コミュニティセンターの解体費用は含みません。

事業スケジュール

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
基本計画・基本設計	基本計画等				
実施設計		実施設計			
建築工事			コミュニティセンター移転改築工事		
			屋内遊び場改修工事（現中央児童館）		
			屋外遊び場整備工事		
				外構工事	
管理運営等	管理運営の検討				運営開始

第二学区コミュニティセンターの建築計画

整備方針

①誰でも立ち寄りやすい施設整備

- 平屋の木造とし、木のぬくもりが感じられ、居心地の良い木造建築とします。
- 特定の人だけでなく、用事がなくても誰でも気軽に立ち寄れるよう、人々の活動が周囲に染み出すホワイエを設けます。
- 事務室を、建物全体を見守りやすく、中央児童館と連携しやすくするよう、中央児童館側に配置します。

②活動や交流がしやすい施設整備

- 豊かな緑地空間を楽しめ、活動の幅が広がるよう、屋内外一体利用できるよう整備します。
- 既存の大きく育ったプラタナスを、癒しや遊び、日差しを遮る機能として活用し、木陰でくつろいだり、樹や落ち葉で遊んだり、こどもから高齢者まで、誰もが集い交流できる、本拠点のシンボルエリアとして整備します。
- 会議室を可動間仕切りで仕切れるようにし、大人数から少人数まで多様な規模の利用に柔軟に対応できるようにします。
- 料理や飲食だけでなく、会議利用も可能なキッチンスペースを設けます。
- 軽スポーツ、地域住民の集会や健康体操、文化・芸術発表の場、こども・若者の利用や相互交流が促進されるよう、多目的軽スポーツホールを整備します。

③防災機能の整理

- 新しいコミュニティセンターの避難所指定は下表のとおりとします。

対応する災害種別	
地震	洪水・内水氾濫
○	×

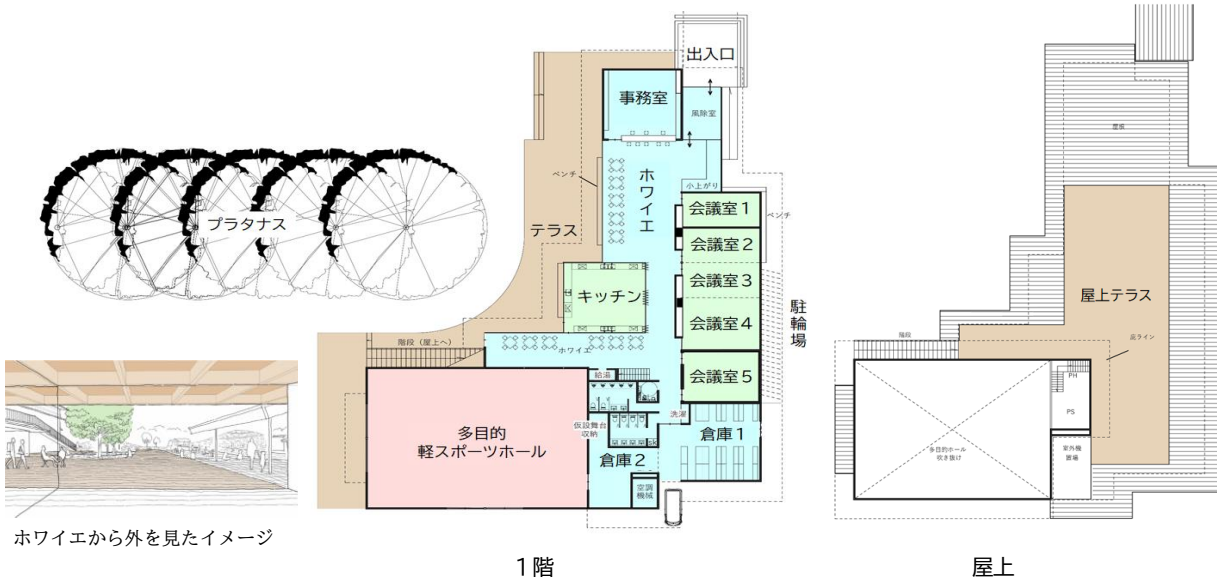
- 洪水・内水氾濫の場合は、計画地は早期の立退き避難が必要な区域に指定されているため、避難所には指定できません。

そのため、浸水への備えとして、下記の対策を計画します。

〈 浸水への備え 〉

- ・ 万が一逃げ遅れた施設利用者がいた場合に備え、屋上の高さを約5mに設定し、屋上へ上がれるルートを確認します。
- ・ 内水氾濫等による浸水を防ぐ高さを、近年の降雨状況等のデータを基にGL+1.5mに設定します。
- ・ 軽微な浸水への対策として、建物全体のフロアレベルをGL+0.5mに設定します。
- ・ 屋外空間は、平常時は市民の交流・憩いの場として活用しつつも、降雨時には雨水を一時的に保水・貯留することで流出量を抑制し、市街地の内水被害軽減に寄与する防災機能を備えた空間とします。

計画イメージ



ホワイエから外を見たイメージ

1階

屋上

諸室計画及び規模

諸室及び規模は、必要空間を十分に確保しながら、コンパクトかつ魅力的な空間を 下表のとおり計画します。

必要諸室	主な機能	用途等	想定人数	計画面積
ホワイエ	くつろぎの機能 学習・体験機能等	誰でも自由に気軽に使える共用スペース、 中高生の勉強スペース	40人	約200㎡
会議室1	学習・体験機能 飲食機能 多世代交流機能等	会議、書道、囲碁、詩吟、育児相談などの活動の場所	18人	約30㎡
会議室2~4		会議、書道、囲碁、詩吟、育児相談、 懇親会などの活動の場所 可動間仕切りで仕切れ、様々な規模の利用に対応	10~70人	約90㎡
会議室5		防音性能を備えた会議室	20人	約40㎡
キッチン スタジオ	飲食機能	料理教室や会議、屋外とも一体的な利用 が可能なキッチン	20人	約60㎡
多目的軽 スポーツ ホール	健康増進機能 多世代交流機能等	運動、集会、発表、こども・若者の利用 や相互交流など多目的な場所 卓球をはじめ、ソフトバレーボール1面、 ポッチャ2面が可能な広さ	200人	約300㎡
事務室	事務機能	施設管理者の打合せスペースを確保	3人+α	約50㎡
倉庫1	その他	主に学区備品、防災備品の保管		約70㎡
倉庫2	その他	主にホールで使用する用具の保管		約40㎡
トイレ	その他	男、女、多目的トイレを設置		
給湯室	その他	共用の給湯スペース		
			合計面積	約1,000㎡

(屋外)

屋上	防災機能	洪水・内水氾濫の緊急時に逃げ遅れた人が上がれるスペース
テラス	くつろぎ等の機能 飲食機能	誰でも自由に利用でき、ゆっくりと憩えるスペース イベント広場や屋内と一体的に利用できるスペース
イベント広場	多世代交流機能 共同機能 飲食機能	様々なイベントや活動ができるスペース キッチンカーの乗り入れ可能

構造計画

コミュニティセンターは、「つるおかの建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」に基づき、鶴岡産木材を利用した木造、または木造とその他構造による混構造を基本として計画します。

項目	分類・目標
構造体	Ⅱ類
地震地域係数	Z=1.0
建築非構造部材	B類
建築設備	乙類
積雪荷重	積雪深 150cm・単位荷重 30N/cm/㎡

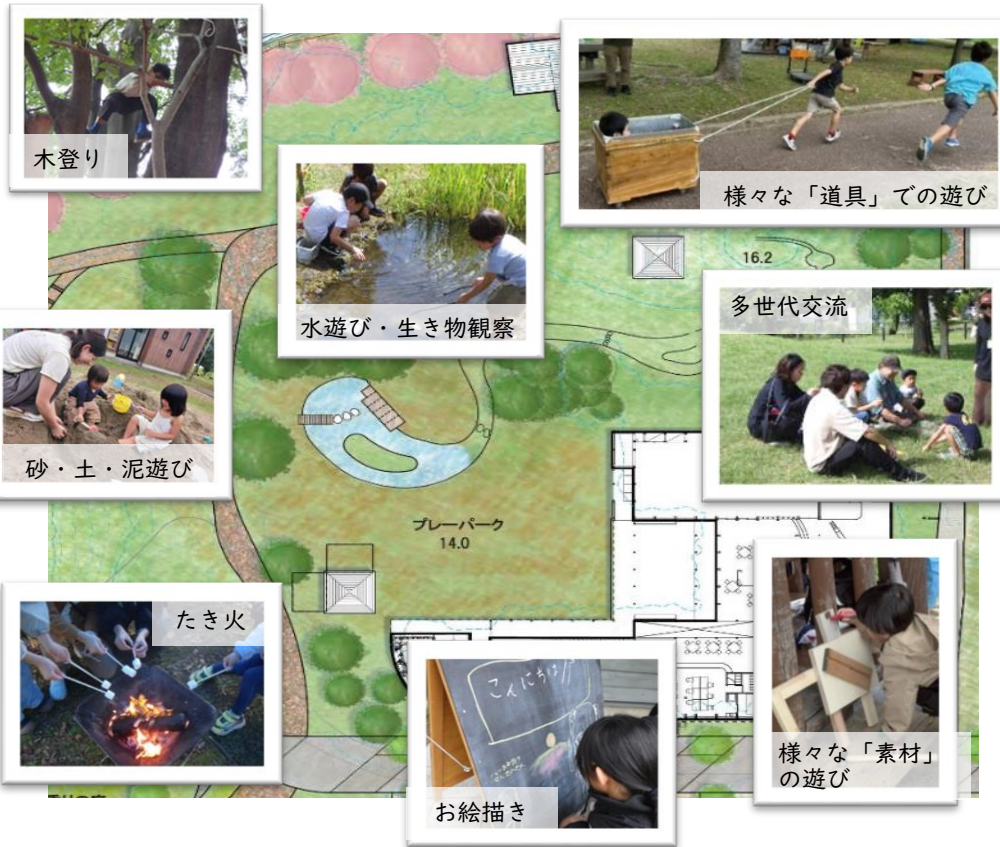
プレーパーク（遊び場）及び屋外施設整備計画

<3つのゾーンイメージ図>

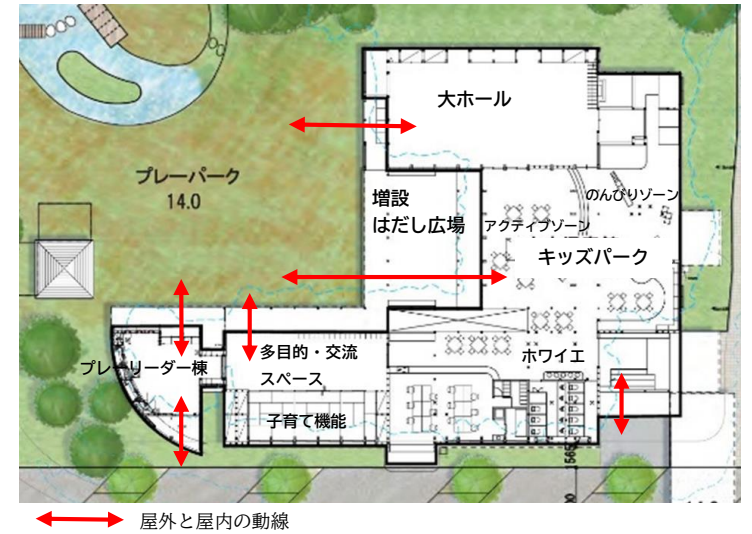
整備拠点の屋外は、四季折々の豊かな自然に触れ、一年を通して自由な発想で自然に親しむことができるよう既存の地形や樹木等も活かし3つのゾーンに分け、各テーマに添った整備を行います。



プレーパーク（冒険遊びゾーン）の整備



屋内遊び場（現中央児童館）の改修計画



○はだし広場
屋内から“はだし”で行き来でき、屋根付きとする事で冬季や雨の日でも遊べるスペースの増設を計画します。
足洗や更衣室を設けることで、外遊びで汚れてしまっても洗うことや着替えるができるように検討します。



屋外からはだし広場を見たイメージ

憩いゾーンの整備

探求ゾーンの整備



○山の上からの眺め



○ベンチ、机の設備

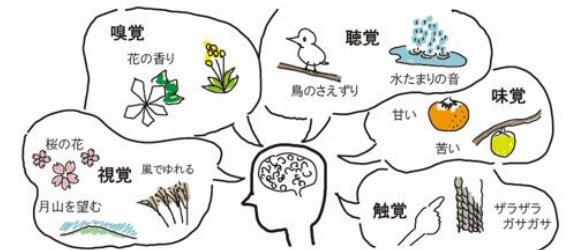


○ハンモックや手作りブランコ



整備拠点の屋外は、視覚や触覚、嗅覚、聴覚など、五感を楽しめる場所として整備を行います。

特に探求ゾーンは、花が咲いたり、実が付いたりする様々な植栽、起伏のある地形など、自然豊かなエリアとして整備します。



自然豊かなゾーンとして、自然を感じる癒しの場所としてだけでなく、自然の素材を使った遊びや工作、動植物の観察、植物の育成など、興味・関心あることを、時間をかけてじっくり楽しむことができるエリアとして検討し、整備します。

